

IV (1) 教科指導力の向上を図る校内研究の工夫

授業研究会の充実

全校授業研究会①(第六学年)における授業づくり・授業改善

【単元名】 文章を読んで自分の考えをもとう【イースター島にはなぜ森林がないのか】

【教材研究】

- 教材文の分析【視点1】
文章構成は、序論・本論・結論で構成され、筆者の主張が結論部分に書かれてある尾括型の説明文である。文末表現の工夫に筆者の強いメッセージを感じる。
- 教材分析表の作成(資料1)
- 身に付けさせたい読みの力の確認
・ 事実と意見を正しく捉え、事実に対して自分の考えをもつ力
- 児童の実態の把握
文末表現に着目し、事実か意見かを判断できた児童は約半数いた。
- 授業づくりシート(資料2)
- 学習指導案の作成(別紙1)
(単元構成の工夫【視点2】)

【授業実践】

- 模擬授業・先行授業の実施と見直し
① 筆者の主張はいつ確認するのか。
② 単元を貫く言語活動との関連性はどうか。
③ 評価の際の具体的な基準の確認が必要である。
- 自分の考えをもち、読みを深めるための指導過程の工夫【視点3】
筆者が調べて分かった、森林が失われた原因と森林破壊によって起こった問題を「事実」と捉え、その事実に対しての自分の考えをまとめさせる。その際、文末表現を意識させる。その後、筆者の主張と自分の意見を比較させ、筆者の述べ方の工夫にも気付かせていく。
- 全校授業研究会【5月21日(木)】



事実を基に自分の考えをまとめる様子



自分の考えをペアで紹介し合う様子

授業づくり
授業改善

【成果や課題の明確化】

- 事後検討会における成果と課題の共有化【視点2について】
・ 「生きてはたらく」という観点から、社会科の歴史の学習と関連させ、「事実」を基に「意見」を考える活動につなげている提案であった。
- ・ 限られた時間に「読みの力」を身に付けさせるとすれば、どこをどのように扱うかという精選の力量が大切である。
- 【視点3について】
・ 主発問を「森林破壊が起こらないため」と限定して聞いては、読みを狭くしてしまうのではないか。
- ・ 自分の考えを話したいという高まりをもたせることが必要ではないか。
- 【その他】
・ 子供の意見を大事にするためには、板書力が求められる。(意見・根拠・文末表現を意識させるために!!)
- ・ 中学校では、書き手の見方に共感・疑問・批判しながら、読み手として考えを広げるとある。児童に、この視点で力を付けていかなければならない。

【一単位時間や単元の評価】

- 発表の内容、ノートの記述内容、教師の見取りなどを基に評価【本時における「読みの力」を身に付けた児童の姿】
・ 事実を正しく読み取り、その事実に対して自分の考えをまとめている姿
・ 筆者の意見を正しく読み取り、自分の考えとの共通点や相違点に気付いている姿
- (児童のノートの一部)
・ 子孫を敬うことが必要なのではないだろうか。自分たちがやるべきことを子孫につないでいこうとする気持ちがあれば行動にも移せるはずである。

※ 毎時間ノートを回収し見取る

【単元の評価】

- A: イースター島の歴史(事実)に対して、根拠に基づいた自分の考えを文末表現に気を付けながらまとめている。
- B: イースター島の歴史(事実)に対して、自分の考えをまとめている。

◎ 教科指導力の向上を図るために、こんな工夫が・・・

学力向上に向けた授業づくり・授業改善の具体策が共通理解されており、授業研究を通して成果と課題を検証し、課題解決していくというサイクルが確立しています。また、それぞれの教師が主体的に教材研究を行い、互いに磨き合う場にもなっています。

※ 事後検討会を受け、成果として挙げたことを継承するとともに、改善すべき点は次の授業研究会に「課題のリレー」としてつないでいくことが大切です。

※この実践例は、大崎市立古川第一小学校の校内研究(国語科)を参考にさせていただきました。

IV (2) 自ら学ぶ意欲や問題解決能力を高める学習指導の工夫①

<小学校1学年国語科 実践例>

◎単元名「じぶんならこれ!てがみでりっちゃんにおしえよう『サラダでげんき』」

学習過程

段階時間	学習活動	◆ 指導上の留意点 ○ 教師の支援 * 評価の観点 (方法)
導入 10分	1 単元の学習課題や前時までの学習を振り返り本時の学習課題をつかむ。 ・ 十の場面 (P15L1~P15L10) (一斉音読) ◇ 今日のアフリカ象が登場する十の場面を読み、アフリカぞうはどんなことをしたのでしょうか。	◆ 学習計画表や読み取り図を活用することで、単元の学習課題や前時までの学習を振り返らせ、本時の学習課題を明確につかませる。 ◆ 音読 ◆ 本時の学習課題をつかませる。
展開 20分	3 アフリカ象が、急いで飛行機に乗ってやってきた理由を想像する。 (自分→ペア→全体) アフリカぞうは、どうしてそんなに急いで飛行機に乗ってやってきたのでしょうか。自分の考えをノートに書きましょう。 ・ 十の場面 (P15L1~P16L4) を音読する。 (指名音読)	◆ 「せかせかと」「まにあってよかったよかった」の言葉に着目させることで、急いでやってきた様子をとらえさせる。その上で「どうしてそんなに急いで飛行機に乗ってやってきたのでしょうか」と発問することで、サラダの完成の前に、油と酢と塩をかけて、力強くりんくりんとまぜる、アフリカ象だからこそできる「おてつだい」をしたかったことを想像させることにつなげる。 ◆ 自分の考え(想像したこと)を各自ノートに書かせる。書き終えた児童から、ペアを作って読み合わせることで、自分と友達の考えの同じところや違うところを見付けさせる。 ◆ 全体場で発表させ、話し合わせる。全体での話合いの様子に応じて「急いでいるなら、白くまのように電報で教えればいいのではないか」という切り返しの発問をすることで、「アフリカ象は自分の鼻で力強くまぜたかったからやってきた。理由は、象は力持ちだから、その力でサラダをまぜれば、たちまち元気になるサラダが出来上がるから。」という、アフリカ象だからこそ「力ぶよく」まぜる「おてつだい」をしたかったことを想像させる。 ◆ 「力ぶよくりんくりんとまぜました」を動作化させたり音読させたりすることで、アフリカ象の力を生かしたお手伝いの様子をさらに深く理解させる。
	・ 「力ぶよくりんくりんとまぜました」を動作化したり音読したりする。	* 調 「力ぶよくりんくりんとまぜました」を動作や音読に表現することができたか。(動作化や音読の発表)

- ◎ 学ぶ意欲や問題解決能力を高めるために、こんな工夫が・・・
- 初発の感想を生かした課題設定
 - 学習計画表や読み取り図の活用
 - 焦点化して考えさせるための発問
 - ねらいを明確にしたペア学習
 - 思考を整理させるための書く活動
 - 理解をより深めるための音読や動作化

※この実践例は、大崎市立岩出山小学校 加勢幸美先生の授業を参考にさせていただきました。

IV (2) 自ら学ぶ意欲や問題解決能力を高める学習指導の工夫②

＜中学校3学年数学科（習熟度別学習）実践例＞ ◎単元名「相似な図形」

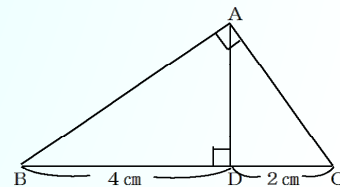
習熟度別・少人数学習を取り入れると、より実態に合った学習を進めることができます。
 発展的な内容を扱い、「よくできている子どもも楽しい授業」を！

指導上の留意点と支援 (◎：留意点, ◇：支援, ○：予想される生徒の反応)

導入 15分	1 三角形の相似条件を確認する。	一斉
	2 三角形の相似条件の使い方について確認する。	一斉
	3 本時の学習課題を確認する。	

- ◎教科書は閉じさせておく。
- ◎3つの相似条件を全員でゆっくり言う。
- ◎三角形の相似条件の利用の仕方が図形の性質を証明するだけにとどまらず、面積を求めるところまで用いることができることを話し、意欲を高める。
- ◎学習課題を板書して確認する。 (視点I)

(学習課題) 三角形の相似を利用し、次の△ABCの面積を求めよう。



学習問題を工夫し、解決への意欲を引き出しましょう。
 問題は「面積を求める」ですが、そのためには3つの三角形が相似であることを証明する必要があります。生徒に証明する必要性を実感させることが大切です。

- 予想される生徒の反応
 - ・△ABCと△DBA (2組の角がそれぞれ等しい)
 - ・△ABCと△DAC (2組の角がそれぞれ等しい)
 - ・△DBAと△DAC (相似条件に直接結びつかないので直接は相似であることを証明できない)
 - ・分からない。

(発問) △DBA (中) と△DAC (小) は直接は相似であることを証明できないけど、相似であることが分かります。なぜでしょうか。

◇黒板に△ABC (大), △DBA (中), △DAC (小) の3つとも相似であることが分かるように、対応する順序をそろえて貼る。

(発問) では、△DBA ∽ △DAC を証明しましょう。再度証明の手順を確認しましょう。

- 予想される生徒の反応
 - ・相似であることは形が同じということなので、△ABC ∽ △DBA, △ABC ∽ △DAC ということは△DBA ∽ △DAC ということである。
- ◎手順は生徒から引き出す。
- ◎△ABC ∽ △DAC は△ABC ∽ △DBA の証明と同様の手順で証明できるので、「同様にして」ということばが使えることを思い出させる。

展開 15分	5 自力で証明する。	個
	6 子どもの思いや考えに沿って支援しましょう。できるだけ、子ども自身に「自分でできた」という思いをもたせられるように教具を工夫しましょう。	ペア

- ◎相談を一切させないで、黙って自分の力だけで考えさせる。 (視点III)
- ◇1分ほどして、全く何も書けていない生徒に対し、対応する点の分かりやすいように具体的な図を並べさせ、視覚的に三角形の相似が見出しやすいようにする。
- ◎ペアで△DBA ∽ △DAC の証明について、確認させる。 (視点IV, V)

※この実践例は、大崎市立松山中学校 佐々木英友先生の授業を参考にさせていただきました。

IV (4) 言語活動を充実させる指導の工夫 (中学校)

＜中学校3学年 美術科実践例＞ ディベートによる鑑賞

- 題材名 「ピカソの絵は誰にでも描けるのか」【ディベートによる鑑賞】
- 指導目標
 - ・ピカソの作品を成り立たせる造形要素に興味をもって鑑賞し、芸術作品の価値について関心をもたせる。【関心・意欲・態度】
 - ・作品を成り立たせる形態や色彩、構図、表現方法などについて言葉で整理し、話し合うことによって多様な作品の見方について気付かせる。【鑑賞】
- 指導過程

場面	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	・予想される生徒の反応 1本時のねらいを把握する。 ・ピカソの作品を通して、芸術作品の役割や価値について関心をもとう。 ・他の人の考えを聞くことによって、多様な作品の見方に気付こう。	＊Cの生徒への配慮 ・授業をスムーズに進めるために、一時間の流れを説明する。	
5分	2テーマを確認する。 ピカソの絵は誰にでも描ける /誰にも描けない	・肯定側と否定側の持ち時間や発言回数を確認。あくまでも作品の理解のために行うのだということを踏まえさせる。	
展開	3ディベートを行う。 本時の手だて：意見交換による課題解決的な学習 (1) 立論 <16分-各班2分> [肯定側] ①1班②2班③3班④4班 【予想される生徒の反応】 ・幼児が描く絵に近い ・色々な視点が混乱している [否定側] ①5班②6班③7班④8班 【予想される生徒の反応】 ・色や形が独創的 ・自由でとらわれない (2) 作戦タイム1 <3分> (3) 質疑応答 <8分> ①肯定側質疑→否定側応答 ②否定側質疑→肯定側応答 (4) 作戦タイム2 <3分> (5) 反論 <8分-各班1分> ①肯定側反論 ②否定側反論	・グループは話し合いがしやすい4～5人の単位にし、班長を決めておく。 ・ディベートは制限時間があることを理解させ、時間を計って進める。 ・相手の立論を聞き、質問や反論を組み立てさせる。その時、根拠を示して論じることを再度確認する。 ・声の大きさや抑揚、ジェスチャーなども考慮に入れ、説得力ある表現について工夫させる。 ＊考えの違いについて個別に説明し、理解を促す。 ・激しい論争になり過ぎたり、論旨が逸れるときには指導する。	○他の人の考えを聞くことによって、多様な作品の見方に気付いている。【鑑賞】
40分	4ディベートの内容について振り返る。 【生徒に挙げさせたいこと】 「芸術の価値とは？」 ・物事の新しい見方を提示 ・生活を潤す ・芸術作品の価値≠価格	・ワークシートを使って、ディベートを通して、気付いたことを中心にまとめる。 【生徒に与える視点】 ・どのような心構えで芸術作品に向き合えばよいのだろうか。 ・肯定側、否定側の立場ではなく、自分の考えを記入させる。【提言4】 ・ディベートのけんそうから一転、静かに思考する雰囲気になり替わりたい。 ＊生活の中での芸術作品の役割について助言する。	○芸術作品の役割や価値について関心をもっている。【関心・意欲・態度】
5分			

○ 指導計画

時	学習内容	ねらい
1	ディベートやテーマについての理解 ピカソの作品鑑賞 A 青の時代 B バラ色の時代 C キュビズムの時代	・ディベートの方法について理解させる。 ・ディベートのテーマと目的について理解させる。 ・形態や色彩、構図や表現方法について分析し個人の考えをまとめさせる。 ・個人の考えをもとに班の考えをまとめさせる。
2	ピカソの人生と作品 他の作品の鑑賞 立論	・ピカソの生き方について知り、作品との関連を考えさせる。 ・作品や作家について多様な面からとらえさせる。 ・これまで感じたことをもとに整理し、班で立論させる。
3	ディベート 芸術作品の役割や価値について	・ピカソの作品を鑑賞することによって、物事の新しい見方を提示したり、生活を潤したりするなどの芸術作品の役割や価値について関心をもたせる。 ・他の人の考えを聞くことによって、多様な作品の見方に気付かせる。

○ 意見交換による課題解決的な学習活動

ディベートで作品や作家を深く探らせる。ピカソの作品や作家としての生き方を調べることから立論した考えを発表し、さらに反論する論点を見付け出す。生徒間の話し合いはグループからグループへ、そこから全体へと展開していく。できるだけ作品に即した具体的な論点が見い出せるように支援したい。ディベートでは、話す、聞くの技術が必要とされる。相手を説得するためには表現力が必要になるので、発表力を高める機会としたい。議論が混沌としたところでまとめに入り、ピカソの作品から一般的な芸術作品についての価値や鑑賞する上での心構えなどについて触れていきたい。

◎ 言語活動を充実させるために、こんな工夫が・・・

- ① 本実践例では、学習指導要領に示されている鑑賞における「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合う」活動を受けて、ディベートによる言語活動を取り上げています。
- ② 立論を強化するために、多くの資料から根拠となるものを探し出す必然性が生まれ、多様な視点からの鑑賞が可能となります。言葉で考え整理することで、鑑賞の焦点が定まり、意見交流を通して新たな視点に気付かせることもできます。ディベートの後、芸術作品の価値や社会の中での芸術の役割について意識を高めさせていることも参考になります。
- ③ その他の教科においても、その特質に応じた言語活動を活発かつ適正に行わせ、豊かな言語能力を養っていくよう配慮していくことが大切です。

※この実践例は、大崎市立古川中学校 菅原由美子先生の授業を参考にさせていただきました。

V (1)「家庭学習の手引き」の見直し

- ◎ 多くの学校で家庭学習の定着のために「家庭学習の手引き」が作成されています。下のチェックポイントで内容や活用の仕方を見直してみると、より効果的なものになります。

1 内容について

□ 「家庭学習の手引き」について家庭へ周知徹底を図っているか。

- ・ 家庭学習の目的を明確に伝えているか。
- ・ 「何を」「どれだけ」学習したらよいかの目安を示しているか。
- ・ 家庭で集中して取り組めるような学習環境の整備について示しているか。

□ 自分で目標を決めるようになっているか。

- ・ 目標を設定するための手立てを講じているか。
- ・ 家庭学習の開始時刻や学習時間等が、生活リズムの中に位置付けられているか。

□ どのように家庭学習を進めればよいか分かるようになっているか。

- ・ 教科ごとの家庭学習の手順を示しているか。
- ・ 家庭学習ノートのつくり方を示しているか。

□ 家庭学習ノートを継続させる手立てを講じているか。

- ・ 家庭学習ノートをどのように評価するか示しているか。
- ・ 家庭学習ノートの授業への生かし方を示しているか。
- ・ 家庭学習ノートの提出の仕方を示しているか（特に中学校においては、学級担任、教科担任どちらに提出するのか明確になっているか）。

「家庭学習ノートコンテスト」等を実施し、よりよいノートづくりや意欲の向上を図っている学校もあります。

2 活用について

□ 家庭学習の実施状況を定期的に点検しているか。

- ・ 学期ごと、あるいは年間に数回、家庭学習の実施状況について目標と時間が守られているかを確認する「実施状況調査」を行っているか。
- ・ 家庭学習について保護者と確認し合う機会をもち、改善を図っているか。

□ 家庭学習の状況を積極的に発信しているか。

- ・ 家庭学習の優れた取組について、学校だより、学級だより等で家庭へ積極的に発信しているか。
- ・ 教室や廊下等に家庭学習コーナーを設け、よい取組（家庭学習ノート等）を具体的に紹介しているか。
- ・ 教職員で、児童生徒の家庭学習の実施状況を把握し、分析・考察を行い、改善のための話合いがなされているか。

週末課題として、思考力を高めるような手応えのある問題に取り組みせ、成果を上げている学校もあります。

□ 学校独自の取組を推進しているか。

- ・ 地域や学校、児童生徒の実態に合わせた独自の取組を工夫しているか。

◎ 「家庭学習の手引き」活用のための重要ポイント

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 教職員の共通理解と共通行動 | ② 活用に当たっての家庭との連携 |
| ③ 継続的な取組 | ④ 内容の見直しと改善 |

V (2) 家庭学習の充実に向けた働き掛け①

◎ 学校としてどのような学力を児童生徒に身に付けさせたいのか、そのためにはどのような家庭学習が必要なのかを示して取り組むことが大切です。また、中学校区での共通した取組も有効です。

ポイント①：家庭との連携

家庭学習の手引き(保護者の皆様へ)

はじめに

宮崎中学校区の三小中学校では、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。そのためには、保護者の皆様のご協力が必要です。まずは、毎日しっかり家庭学習に取り組ませていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

家庭学習のねらい

※まずは、毎日の本読み、宿題をしっかりと取り組む習慣をつけましょう。
 低学年・・・本読み、宿題を毎日きちんとやる習慣をつけさせましょう。
 中学年・・・宿題に加え自主的な学習もできるようにしていきましょう。
 高学年・・・宿題に加え自主学習を通して自ら進んで学習に取り組む力をつけましょう。(中学校に向けての準備も意識していきましょう)

時間の目安と主な内容

低学年(20分)→ 本読み(5分)宿題(15分)
 中学年(40分)→ 本読み(10分)宿題+自主勉強(30分)
 高学年(60分)→ 本読み(15分)宿題+自主勉強(45分)
 ※家庭での勉強時間は、個人差があります。上の時間は目安です。お子さんの様子を見ながらその子に合った家庭学習の時間とやり方を見つけれられるとよいでしょう。
 ※本読みは、国語の教科書が大きな声ですらすら読めるようになったら、他の教科書や本を読ませましょう。(長文に親しませることも大切です)



家庭学習のポイント

【勉強を始める前に】

- ① テレビやゲームを消す。
- ② 机の上をきれいにする。
- ③ 良い姿勢で行う。

【勉強が終わったら】

- ① 学習したことを見てあげる。
- ② 学習カード(本読み)などに押印する。
- ③ 次の日の準備がしっかりとできているか確認する。

※毎日の規則正しい生活が子どもたちの学力を育てます。
 「はやね」「はやおき」「朝ご飯」の取り組みをお願いします。
 ※やらないことをしかるのではなく、やったことを認めほめてあげてください。
 ※家庭学習の仕方を全学年に配布しました。部屋の壁などに貼っていただき、お子さんの家庭学習への取り組みを、ねばり強く支えてあげてください。

ポイント②：小中・小小連携

【小中連携、小小連携】

おたすけシートを作成するに当たり、原稿用紙や作文の記入の仕方が十分に身に付いていないという児童の実態について、研究主任等研修会で話題にしたところ、中学校の国語科での取組を紹介され、小学校でも活用できるようにしていただいた。また、宮崎中学校区の児童はいずれ同中学校へ進学するというを受けて、小学校同士の連携をさらに深めることを目指し、取組を紹介しながら同じものを活用することになっている。

※ H26 北部管内大崎地区小・中学校
 研究主任等研修会資料より

「おたすけシート」については、次のページで紹介します。

家庭学習のてびき

宮崎中学校区小学校 6年生用

※時間を決めて 毎日がんばろう!
 ※テレビは 消したかな? ? ?

家庭学習の手順

- ① 連絡帳やファイル、宿題を準備する。(お便りは出したかな?) (連絡帳はチェックしたかな?) (今日の宿題は何かな?)
- ② 本読みと宿題をする。(本読みは家の人に聞いてもらおう。)
- ③ 宿題が終わったら、自主学習に取り組む。
- ④ おうちの人に見てもらおう。
- ⑤ えんぴつをけずって、明日の用意をする。(筆入れの中身は、大丈夫かな?) (下敷きはあるかな?) (明日の持ち物は確かめたかな?)



中学校への期待値 6年生 (できることを増やそう)

- ① 小学校で習う漢字(1006字)のすべてが読めて、8割の漢字が書ける。
- ② 小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- ③ 歴史に残る古文のいくつかにふれ、理解できる。
- ④ 分数のかけ算・わり算ができる。
- ⑤ 歴史上の人物について正しい説明ができる。
- ⑥ 重要年号を30程度覚える。
- ⑦ 日本国憲法の内容のあらましを理解できる。
- ⑧ 三権分立などの社会用語の正しい説明ができる。
- ⑨ 世界の主な国や日本の県の位置を正しく示すことができる。
- ⑩ 理科の実験用具の正しい使い方を知っている。
- ⑪ パソコンで素早くローマ字入力できる。

国語では

- 国語の教科書をすらすら読めるようになるまで練習しましょう。
- 大きな声で、ゆっくり、はっきり読みましょう。
- すらすら読めるようになったら、会話や「J」に気をつけて読みましょう。
- 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読みましょう。

算数では

- ・ 算数の問題をときどき、わかっていることには、聞かれていないことには、-----をひきましょう。
- ・ 筆算は定規を使って、ていねいに線を引きましょう。
- ・ わからない問題は、教科書やノートを見て調べましょう。
- ・ 終わったら、もう一度見直しましょう。お家の人にも見てもらいましょう。
- ・ まちがえた問題は、もう一度やりましょう。
- ・ 繰り返し練習したり時間を計ったりして、速く正確に計算できるようにしましょう。

自主学習に積極的に取り組もう

- 【書く勉強】
- ・ 教科書の文をていねいにノートに写してみよう。
 - ・ 習った言葉を使って短い文を作ってみよう。
- 【漢字の練習】
- ・ 新しく習った漢字や覚えてない漢字を練習しましょう。
 - ・ 漢字のへんやつくり、筆順に気をつけて練習しましょう。
- 【読む勉強】
- ・ 好きな本や他の教科書も読んでみましょう。
 - ・ 本を読んでいてわからない言葉があったら辞書で調べたり、簡単な感想を書いてみましょう。
- 【日記】
- ・ 一日の中で楽しかったことや心に残ったことを日記に書いてみよう。

こんな勉強もあるよ

- ・ 自主学習ノートを用意して勉強しよう。
- ・ 学校で学習したことを読み直して大事なところをノートにまとめてみよう。
- ・ 学校で学習した練習問題をもう一度解いてみよう。
- ・ 都道府県の名前を暗記しよう。
- ・ 歴史の年表や人物名・出来事などをまとめてみよう。
- ・ テストの勉強しよう。
- ・ 問題集などを用意して、取り組もう。



V (2) 家庭学習の充実に向けた働き掛け②

算数科における週末課題「チャレンジ算数」の取組から

週末課題の修正点

より成果が上がるよう、自校の取組を見直し、改善を加えています。

	修正前	修正後(27年度)
名称	難問	チャレンジ算数
対象	高学年	3年生以上 ※3年生は3学期から実施
問題	難易度がほぼ同じ問題5問の中から1問だけを選択	A問題(標準的な内容の問題)とB問題(応用力が必要な問題)の2問から選択
提出	翌週の月曜日に担任に提出し、少人数担当教諭が丸付けを行う。	毎週火曜日の朝の時間を利用し、担任が答え合わせと解説を行う。その後、少人数担当教諭が評価と記録を行う。
評価	・評価の方法と規準は少人数担当教諭による。	・評価規準を統一する。 ・模範的な解答を廊下に掲示し、紹介する。
その他	・児童が自力で解答することが原則 ・単元との関連は考慮しない。	・保護者と一緒に取り組むことを奨励 ・単元の内容の発展的な問題や全国学力・学習状況調査を意識した内容を出題する。

「チャレンジ算数」の問題と児童の解答

A3判の用紙の左側が問題、右側が解答欄になっています。

6年 チャレンジ算数

10月16日(金)

チャレンジ算 NO.7

「チャレンジ算」は、考える力、表現する力を高めるための問題です。

- ①答えをかくだけではなく、式の意味やどうやって考えたかを説明もかきましょう。
- ②図や絵、表、数直線をかいて、分かりやすく伝える工夫をしましょう。
- ③だれが見ても分かるように、ていねいに大きくかきましょう。



今回のA問題は、前回のチャレンジ算の解説をしっかりと理解していればできる問題。できなかったら、いい加減に直した証拠だぞ。今回は必ずクリアしよう！
前回の「せんざいの問題」ができていた人はB問題をえらぼう！

【A問題】
右のような広告を見付けました。この豚丼は増量前は何gだったのでしょうか。

式だけではなく、図や数直線をかいて考えましょう。

答えは、四捨五入して、小数点以下は切り捨てて答えましょう。



【B問題】
現在プロ野球のクライマックスシリーズが開催中です。そこでこんな問題。
セントラルリーグの覇者、ヤクルトスワローズの本拠地、神宮球場のある日の試合では、ちょうど30000人のお客さんが入っていて、満席まであと5000席です。
パシフィックリーグの覇者、ソフトバンクホークスの本拠地、ヤフオクドームのある日の試合では、あと15%の人が入ると満席になります。どちらの球場の方が、席がうまっていますか？理由を示して答えましょう。
ただし、両方の球場の定員は同じとします。

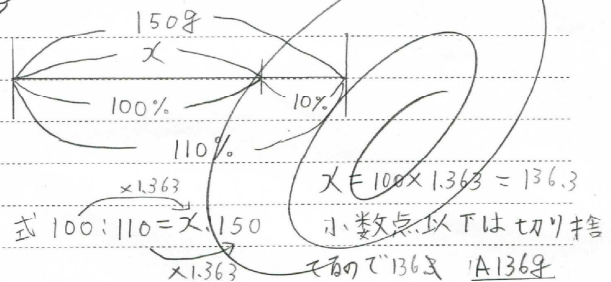
※クライマックスシリーズが何か分からない人は、友達やおうちの人に聞いてみよう。

どのようにして解きましたか？○を付けましょう。

- 1 自分1人で考えた
- 2 家の人といっしょに考えた
- 3 答えを写した

【A問題】

まず、数直線を書きます。

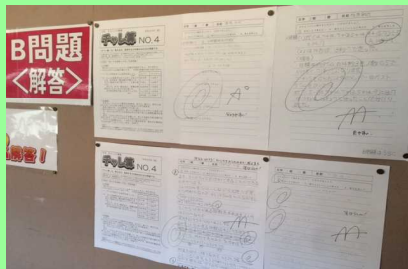


【B問題】

	お客さんの数	空席	満席
セ-リーグ	30000	5000	35000
パ-リーグ	29750	5250	35000

満席は100%なので、あと15%で満席になるということは、入っているお客さんの数は $100\% - 15\% = 85\%$ になります。
 $35000 \times 0.85 = 29750$ $35000 \times 0.15 = 5250$
 $29750 + 5250 = 35000$
 A セントラルリーグの席のほうがうまってる

貼った模範解答
廊下掲示板上に



【意欲を高める評価の工夫】

- A A : 解答が正しく、図や言葉を使って数学的な説明がしっかりされている。
- A : 解答が正しく、説明もある。
- B : 説明は不十分だが解答は合っている。あるいは解答は間違っているが説明の道筋は合っている。
- C : 写している。

※この実践例は、大崎市立古川第二小学校 三塚隆洋先生の研究論文を参考にさせていただきました。

V (3) 学習習慣の確立に向けた働き掛け

<中学校実践例> ◎「スクールライフ」(学習の手引き等)の活用

「スクールライフ」には、教育目標、学習の約束(学習習慣五カ条)、学校行事予定一覧表、効果的な家庭学習の例、各教科の学習の手引き、学習計画表、日々の記録、防災対応等が掲載されています。この1冊で中学校生活が把握できるものです。保護者との連携にも活用できます。



<効果的な家庭学習の例>

授業があった教科はその日に家庭で復習をしましょう。ノートにまとめたり、何度も書いて練習したりすると力が付きます。もちろん、学校のワークや市販のワークで問題を解くというのでもいいですね。

	基本的な内容のメニュー	応用的な内容のメニュー
国語	①教科書を声に出して読む。 ②授業で学習した要点をノートにまとめる。 ③詩や俳句を作る。 ④文章を視写する。 ⑤漢字練習(送りがなやふりがなも書く、筆順を意識して書く) ※漢字は手で何度も書いて覚えること ⑥四字熟語・ことわざ調べ ⑦古語の意味調べ ⑧教科書に出てきた語句の意味調べ ⑨短文作り。 ⑩漢字集め(例「にんべん」のつく漢字)	①教科書の説明文や小説文を読んで内容を要約する。 ②詩や俳句を作り、鑑賞文(作品に込めた思いや表現したいことをまとめた文章)を書く。 ③今日の出来事や本の感想を短い文でまとめる。(50~100字くらい) ④新聞記事を読み、内容を要約する。 ⑤読書紹介文を書く。 ⑥ワークに練習問題を解く。 ⑦古文を現代語訳に直す。
社会	①重要語句を10回以上ノートに書く。 ②一問一答の問題と解答をノートに書く。(ワークの巻末特集「よく出る!重要用語チェックの問題と解答」など) ③重要語句と関わる図版をノートにまとめる。(地理は分布図やグラフ、歴史は幕府のしくみや日露戦争の対立をめぐる列強の関係図など、公民は三権分立のしくみ・議院内閣制など) ④地理は地図を描いて重要語句をまとめる。(地形、国名、農業・工業の特色など) ⑤歴史は年表を通して重要語句をまとめる。(教科書の年表を参考に) ⑥公民は教科書をもとに、重要語句をまとめる。 ⑦定期考査などテストの返却後に、まちがった問題と正解をノートに書く。	①関心のあることを調べる、感想を書く。(授業で気になったこと、ニュースや新聞、インターネット等で気になったことなど)
数学	①数学用語(教科書の太字)の意味を調べ、覚える。 ②教科書や問題集の例題を何度も解く。 ③教科書の例題を写して覚える。 ④授業中に解いた問題やテストなどの間違えた問題を解きなおす。 ※解けないときはまずは写すことから! ※授業のある日は必ず復習を! (Cとeの1、田中、井川を覚える)	①教科書の問や章の問題を解く。 ②問題集のC問題やまとめの問題を解く。 ③スキルの問題をノートに解く。 ④問題集(別冊別冊)を解く。 ⑤文章問題を様々な方法で解く。 ⑥単元毎の総合問題を解く。

月	日	科目	内容・宿題・準備物	今日の感想・反省
1月	1			前夜の勉強時間 : , 今朝の起床時間 :
	2			国・英・社・算・理・保・技・体ノ計 時間 分
	3			
	4			
	5			
	6			
2月	1			前夜の勉強時間 : , 今朝の起床時間 :
	2			国・英・社・算・理・保・技・体ノ計 時間 分
	3			
	4			
	5			
	6			

基本的な内容と応用的な内容を具体的に示しています。また、下のように各教科の学習の手引きの項に示している例もあります。

家庭学習の教科や時間、就寝時間や起床時間を記録し、学習習慣だけでなく基本的な生活習慣の意識付けも図っています。感想・反省欄が学級担任とのレポートづくりにも役立っています。

4 ノートのまとめ方(予習の仕方)

予習として、①単語を写す ②単語の意味調べ ③本文(英語)を写す。先生から「宿題!」と言われなくても、進んでやってみよう。

ノートのまとめ方(予習の仕方) ★部分を予習する

Unit等は欄外に	日付欄に(類で)	《予習の具体例》単語練習は授業後に行う	
Unitやページ	日付	Unit Part1 P.14	April 20
★単語と意味調べ(余ったスペースは、授業後に単語練習をする。)	★本文(英文)を1行おきに写す。空いた所に重要事項を記入。	★hi (は) : hi hi I (私は) : I I I I nice (素敵な) : meet meet meet (会う) : go, go... Nice to meet you (お話し) Nice to meet you, too.	★Hi, I'm Sojuna. Hi, I'm Becky. Nice to meet you. Nice to meet you, too.
授業でのまとめ(黒板に書かれたことをここに書く。)	練習問題などもここに書く。	ここは授業でまとめる。	練習問題などを書く。

- ◎ 学習習慣の確立のために、こんな工夫が・・・
- ① 家庭学習の効果的な学習例、各教科の学習の手引きの充実
基本的な学習と応用的な学習の例を示すとともに、実際に提出された自学ノートをもとに学級担任が個別に助言するなど個に応じた指導に努めています。
 - ② 学習習慣、基本的な生活習慣の定着を目指した日々の生活記録の活用
毎日の学習時間や生活時間の記録、係を活用した提出確認、感想・反省欄を大切にしたらレポートづくりなど、「スクールライフ」のよさを最大限生かすよう努めています。

※この実践例は、大崎市立鹿島台中学校の実践を参考にさせていただきました。

VI (1) 校内研究の評価のポイント

- 1 校内研究の評価をする際の留意点**
- ・年度当初から、校内研究の評価の時期や評価項目をあらかじめ示しておく。
 - ・研究実践が日々の教育活動と結び付き、研究成果を活用していくことを念頭に置き、改善・充実を図るための評価を行う。
 - ・「計画の段階」「実践の段階」「年度末の段階」それぞれの時期に評価を行う。

- 2 評価内容の例**
- ・研究成果を明らかにし、研究目標を達成したかという観点からの評価
 - ・学校教育目標をいかに達成しているかという観点からの評価
 - ・研究内容や研究の進め方が適切であったかという観点からの評価
 - ・児童生徒がどのように変容したのか、具体的な姿からの評価
 - ・標準学力検査の結果やアンケート調査等、数値目標の達成度による客観的な評価
 - ・研究の成果や内容を次年度の研究に生かしていくための評価

3 評価の実例の例

評価の種別	評価の進め方
個人評価	研究について、個々の教師が取組を振り返り評価する。
組織評価	研究部や教科部会、学校評価委員会等で研究目標の達成度について分析・考察し、研究実践の評価をまとめる。
児童生徒の変容に関する評価	個人評価及び各組織評価を通して、児童生徒がどのように変容してきたか全体で話し合い、評価をまとめる。

児童生徒の変容については、授業中の姿や作品等をどのように評価するか、研究の視点に沿って、見取りの共通理解を図る研修を実施することが必要となる。

4 評価方法の具体例

評価の形態	実施する場合のポイント
教師によるアンケート評価	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部で記述項目を定め、項目ごとに記述する。 ・研究全体を通じて、気付いたことや意見を記述する。 ・評価の観点を示し、評価尺度（A～Dの4段階など）を設定し、評価の資料とする。
外部参観者による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事学校訪問、学力向上サポートプログラム事業、学力向上成果普及マンパワー活用事業等を活用し、学校として評価項目を焦点化して意見を求め、評価の資料とする。 ・授業公開日を設定し、教育関係者や保護者及び地域の人々などに授業を参観してもらい、感想や意見を求める。それを分類・整理し、評価の資料として活用する。
児童生徒による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒自身の学びの実感や授業についての考えなどを調査し、教師側の評価と比較する資料とする。

- 5 校内研究の評価項目の設定について**
- (1) 校内研究内容や取組の重点に合わせて評価項目を吟味すると、的確な評価を行うことができる。
 - (2) 年間を通して適切な評価を行うことで「PDCA」のサイクルを確立し、常に研究内容や方法等について改善しながら取り組むことができるようにする。
 - (3) 評価の時期を考慮して、各校で評価の内容及び評価項目を工夫して設定する。この際、これまでの成果が活用できたか、課題が解決できたかなど評価の目的を明確にし、具体的に評価できるように改善することが必要である。
 評価の時期については、学校評価を行う際に校内研究についての評価も行うという方法も考えられる。
 - (4) 選択式の評価に加え自由記述式の評価を設定する。

6 校内研究の評価項目の例

評価の内容	評価項目の例	評価			
		4	3	2	1
① 研究体制	ア 校内研究組織が確立し、計画的に研究を進めているか。	4	3	2	1
	イ 校内研究が、日々の教育実践に役立つ内容になっているか。	4	3	2	1
	ウ 必要に応じて、他の教師の授業を参観できる体制ができていないか。	4	3	2	1
	エ 授業や指導方法等について、検討する場が設けられているか。	4	3	2	1
	オ 総合教育センターや校外の研修会に、積極的に参加できる体制ができていないか。	4	3	2	1
	カ 外部の研修会に参加した成果を伝達する場を設けているか。	4	3	2	1
	キ 一人一人の能力が十分生かされる研究組織がつけられているか。	4	3	2	1
② 研究主題	ア 研究目標は、学校教育目標達成に関連の深い目標になっているか。	4	3	2	1
	イ 学校の実態に応じたものか。継続性は考慮されているか。	4	3	2	1
	ウ 十分に分析され、具体化されているか。	4	3	2	1
	エ 共通理解され、教職員が研究の意欲をもっているか。	4	3	2	1
	オ 主題を受け、適切な副題、研究目標が設定されているか。	4	3	2	1
③ 研究仮説・視点	ア 教職員に十分理解されているか。	4	3	2	1
	イ 日々の実践に生かされるものになっているか。	4	3	2	1
	ウ 主題に迫るために有効に機能し、学校としての独自性があるか。	4	3	2	1
	エ 研究仮説・視点として、研究の範囲や実践に取り組む手立てが明確に示されているか。	4	3	2	1
	オ 目指す児童生徒像が適切に設定されているか。	4	3	2	1
④ 研究計画	ア 研究日程は、学校行事やその他の行事を考え、無理なく設定されているか。	4	3	2	1
	イ 研究に関わる文献研究や資料の収集及びその活用が計画されているか。	4	3	2	1
	ウ 研究授業の準備、事前検討が十分できるように計画されているか。	4	3	2	1
	エ 実践における仮説の検証が十分に行われ、その成果が累積されていくような計画になっているか。	4	3	2	1
	オ 研究授業の事後検討会では、研究仮説・視点に沿って、研究の成果と課題について話し合いが行われているか。	4	3	2	1
⑤ 研究への取組	ア 研究成果が日々の実践に生かされているか。	4	3	2	1
	イ 研究に取り組む時間の確保がされているか。	4	3	2	1
	ウ 研究に関わる文献研究や資料の収集及びその活用が行われているか。	4	3	2	1
	エ 研究授業の事前に模擬授業に取り組むなど、充実した検討会が行われているか。	4	3	2	1
	オ 実践における仮説の検証が随時行われ、その成果が累積されているか。	4	3	2	1
⑥ まとめと成果の活用	ア 児童生徒がどのように変容したか、明確に把握しているか。	4	3	2	1
	イ 研究を推進する中で、成果と課題が明確になったか。	4	3	2	1
	ウ 研究全体に一貫性・整合性があり、活用できる研究のまとめを作成することができたか。	4	3	2	1
	エ 研究によって、教職員の資質が向上したか。	4	3	2	1
	オ 研究が、学校教育目標の達成に生かされたか。	4	3	2	1
	カ 研究成果は、他校にとっても価値のあるものになっているか。	4	3	2	1
	キ 研究成果を、次年度の日々の教育活動にどう活用するのか。その具体的取組が明らかになっているか。	4	3	2	1

【4 あてはまる 3 ややあてはまる 2 ややあてはまらない 1 あてはまらない】

◎ 評価をどう活用するか・・・

① 評価結果を踏まえて、改善を図る。

校内研究の評価結果から、研究内容や研究方法、研究計画等を見直しながら研究を進め、教師の指導力の向上を図り、より児童生徒の力を伸ばすことができる校内研究を目指して改善します。

② 評価結果を含めて、「研究のまとめ」を作成する。

校内研究の評価結果の全体像を把握したり、個々の教師の評価を共有したりするために効果的です。

③ 評価結果を次年度の研究計画に生かす。

校内研究の評価を通して、研究の成果を日常的に活用していくことや、今後、学校として必要となる取組を明確にすることで、次年度の校内研究の方向性が明らかになります。

VII (1) 研究主題, 副題, 研究仮説, 研究の視点改善のポイント

◎ 研究の成果と課題の整理

- ・研究目標や年度の重点目標は、どの程度達成できたか。
- ・児童生徒の姿が、具体的にどのように変容したのか。
- ・研究内容や研究の進め方が適切であったか。
- ・教師の授業力の向上や意識の変容があったか。
- ・研究推進上でどんな課題が生まれたか。 など

P27・28「校内研究の評価のポイント」参照

成果を数値で表したり、児童生徒のノートからの感想等を入れたりするとより具体的になります。

◎ 次年度の研究の方向性の確認

成果と課題を受け、「何がどの程度達成されていないのか」明らかにし、次年度に向け、課題解決の方向性や具体的な改善策を全職員で協議し共通理解を図る。

◎ 研究のまとめ, 資料の累積

「実践集録」や「研究紀要」という形で、年次計画の取組の過程等を記録に残すことにより、成果と課題を全員で共有し、日々の授業改善に生かすことができる。

◎ 研究計画の見直し <研究主題, 副題, 研究仮説, 研究の視点>

次年度の方向性をもとに、研究主題, 副題, 研究仮説, 研究の視点について検討, 修正する。

研究主題 育みたい能力や態度, ゴール, 目標とする姿

副題 主題に迫るための切り込み口

研究仮説

研究主題に迫るための考え方や方法, 研究の見通しや研究結果の予測

研究の視点

研究の内容を具体化するための手立て

※P11「校内研究活性化の6つのチェックポイント」を参照

※ 研究主題, 副題, 研究仮説, 研究の視点の関係を明確にし, 一貫性をもたせる。

※ 研究の視点は, 「～する工夫」ではなく, 具体的な実践事項で示すとよい。

◎ 新規の計画を作成するに当たっては・・・

研究主題や学校の実態に合わせ, 3～5か年の展望をもとに, 年次計画を作成する。

例

<1年次> 基盤づくり

- ・新研究主題設定
- ・研究体制の確立
- ・文献研究・授業実践 など

<2年次> 深化・補充

- ・授業実践・累積
- ・外部講師の活用
- ・成果と課題の共有 など

<3年次> 発展

- ・実践の積み上げ
- ・研究のまとめ(自主公開等)
- ・次年度の研究の立案 など

◎ 研究計画の作成に当たって

① 全員参加で研究計画を作成する。

研究を自分たちのものにしていくためにも, 全員参加の計画作成が重要です。また, 教師自身の自ら学ぶ姿勢は, 児童生徒へも確実に伝わります。

② 作成したら, 異動してきた教員が, すぐに取り組める内容が見直してみる。

4月からすぐに取り組める研究かという観点で, 再度見直していただくことが大切です。その際, 研究構想図で全体の流れがつかめるようにすることもポイントになります。

【資料】各校の校内研究主題一覧（平成27年度）

【小学校】

No.	小学校名	研究主題	副題	年次	研究教科・領域
1	古川第一小学校	主体的に学習に取り組みながら、読みの力を身に付ける児童の育成	単元を貫く言語活動を設定した国語科の授業づくりを通して	3年次/3年	国語
2	古川第二小学校	自分の思いや考えを表現することができる児童の育成	「読む力」「伝える力」を高める学習指導の工夫を通して	2年次/3年	国語
3	志田小学校	主体的に学び合う児童の育成	ICTを活用した授業実践を通して	1年次/3年	全教科・領域
4	西古川小学校	生き生きと学習に取り組み、ともに学び合う児童の育成	算数科の「見通し」「振り返り」を工夫した授業づくりを通して	1年次/3年	算数
5	長岡小学校	分かる喜びや学び合う楽しさを味わえる授業の創造	国語科における「読む能力」を高める指導の工夫を通して	1年次/3年	国語
6	宮沢小学校	自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成	国語科における「読む力」を育てる指導の工夫を通して	1年次/3年	国語
7	東大崎小学校	自分の考えを持ち、進んで学ぶ児童の育成	国語科における説明文の指導を通して	2年次/3年	国語
8	富永小学校	確かに読み取り、主体的に表現できる児童の育成	国語科における言語活動の工夫を通して	2年次/3年	国語
9	清滝小学校	自分の考えをもち、共に表現し伝え合う児童の育成	「清滝スタイル」を基にした算数科授業づくりをおして	2年次/3年	算数
10	敷玉小学校	筋道を立てて考え、表現する力を育む指導の工夫	課題意識をもって取り組む算数科の学習を通して	3年次/3年	算数
11	古川第三小学校	自ら学び、豊かに表現できる児童の育成	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を通して	1年次/3年	国語
12	高倉小学校	自分の考えをもち、学び合う児童の育成	算数的活動を大切に指導の工夫を通して	3年次/3年	算数
13	古川第四小学校	すべての児童が「分かる、できる」授業づくり	国語科におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業をめざして	2年次/3年	国語
14	古川第五小学校	自分の考えをもち、主体的に学び合う児童の育成	「学力の三要素」を重視した算数科指導の工夫を通して	2年次/3年	算数
15	松山小学校	自分の考えをもち、伝え合う子の育成	国語科「読むこと」の領域における授業づくりを通して	1年次/3年	国語
16	下伊場野小学校	学ぶことや高まることに喜びをもって取り組む児童の育成	算数科における学び合う場の工夫を通して	2年次/3年	算数
17	三本木小学校	主体的に読み、表現できる児童の育成	単元を貫く言語活動を意識した授業を目指して	1年次/3年	国語
18	鹿島台小学校	確かな学力を身に付けた児童の育成	国語科におけるユニバーサルデザインの考え方を取り入れた分かる授業づくりを通して	1年次/3年	国語
19	鹿島台第二小学校	確かな読み取りの力を身に付ける児童の育成	国語科における説明的な文章を読むことの指導を通して	3年次/3年	国語
20	岩出山小学校	自ら考え判断し、行動できる児童の育成	「みやぎ防災教育副読本」を活用し、アクティブラーニングを取り入れた授業づくり	1年次/1年	防災教育
21	西大崎小学校	自己有用感を持ち、たくましく生きる児童の育成	志教育の視点を取り入れた活動を通して	2年次/3年	国語、算数
22	上野目小学校	自分の考えをもち、豊かに表現する子どもの育成	読む力を高める学習指導の工夫を通して	2年次/3年	国語
23	池月小学校	根気強く考え、自分の考えを表現できる算数科の授業づくり		3年次/3年	算数
24	真山小学校	自分から学び、考えを深め合える児童の育成	算数科の基礎・基本の力を高める指導の工夫を通して	1年次/3年	算数
25	鳴子小学校	自分の考えをもち、ともに学び合う子どもの育成	国語科における言語活動を工夫した指導を通して	1年次/3年	国語
26	川渡小学校	意欲をもって学習に取り組む児童の育成	算数科の問題解決における見通しを持たせるための工夫を通して	2年次/3年	算数
27	鬼首小学校	自分の考えを伝え合う力を身に付けた児童の育成	算数科における、言語活動を取り入れた学習指導を通して	3年次/3年	算数
28	田尻小学校	進んで、豊かに表現する児童の育成	算数的活動の工夫を通して	2年次/3年	算数
29	沼部小学校	思考力・表現力を高める指導の在り方	算数科における書く・話す活動を生かした授業づくり	4年次/4年	算数
30	大貫小学校	基礎・基本を身に付け、確実に分かる児童の育成	学んだことの定着を図る算数的活動の工夫を通して	1年次/3年	算数
31	中新田小学校	自分の思いや考えをもち、共に高め合う児童の育成	国語科「読むこと」における言語活動を大切に授業づくりを通して	2年次/3年	国語
32	広原小学校	自分の考えを持ち、共に学び合う児童の育成	算数科における指導を通して	2年次/3年	算数
33	鳴瀬小学校	文章を論理的に読み取る児童の育成	説明的文章の指導の工夫を通して	3年次/3年	国語
34	東小野田小学校	自分の考えをもち、主体的に学び合う児童の育成	教師の関わりと学習環境の工夫を通して	1年次/3年	国語
35	西小野田小学校	心豊かに生き生きと活動する子どもを育てる道徳教育の推進	道徳の時間を要とした教育活動の展開を通して	1年次/3年	道徳
36	鹿原小学校	「伝え合う力」を育てる指導の工夫	「話したい」「聞きたい」意欲を引き出す授業づくりを通して	1年次/3年	国語
37	宮崎小学校	自分の考えをもち、表現することができる児童の育成	国語科における読み取りの力を高める学習指導の工夫を通して	1年次/2年	国語

第1章 ACTION(改善) VII 次年度の計画作成のために

No	小学校名	研究主題	副題	年次	研究教科・領域
38	旭小学校	確かな読みのできる児童の育成	国語科における「読む力」を高める学習指導の工夫	2年次/3年	国語
39	賀美石小学校	ともに学び合い、生き生きと伝え合う児童の育成	算数科における「読む」「書く」「話す」活動の充実を通して	2年次/3年	算数
40	色麻小学校	自ら考え、豊かに表現できる児童・生徒の育成		2年次/3年	全教科
41	涌谷第一小学校	主体的に学び続ける児童の育成	「ふりかえり」を生かした算数科の授業づくりを通して	2年次/3年	算数
42	麓岳小学校	文章を読み取り、思いや考えを表現できる児童の育成	領域「読むこと」における指導の工夫を通して	3年次/3年	国語
43	小里小学校	進んで運動に親しみ、心身ともにたくましい子どもの育成	「できた」という喜びを味わわせる体育科の授業づくりを求めて	3年次/3年	体育
44	月将館小学校	基礎・基本を身に付け、筋道をたてて考えることのできる児童の育成	解決方法を見出し、考える楽しさを感じさせる学習過程の工夫を通して	2年次/3年	算数
45	小牛田小学校	自分の考えを伝え合い、学びを深める児童の育成	算数科における学び合いの工夫を通して	5年次/5年	算数
46	不動堂小学校	自他の「いのち」を大切にしようとする児童の育成	「みやぎ防災教育副読本」を活用した防災教育の指導法の工夫を通して	1年次/2年	全教科・領域
47	北浦小学校	生き生きと学び合う児童の育成	かわり合いを大切に体育科の学習を通して	2年次/3年	体育
48	中坪小学校	確かに読み取ることができる児童の育成	「言葉」を手がかりに、豊かに読み深めさせる活動を通して	2年次/3年	国語
49	青生小学校	自分なりの考えをもち、生き生きと伝え合う児童の育成	児童の実態に即した算数科の授業づくりを通して	4年次/4年	算数
50	南郷小学校	楽しく学ぶ子供の育成(算数科)	学年、学級の実態に応じた具体的取組、見取りの工夫をととして	1年次/1年	算数

【中学校】

No	中学校名	研究主題	副題	年次	研究教科・領域
1	古川中学校	「基礎的な学力の定着」と「活用する力」の伸長をめざす授業づくり	本時のねらいの明確化と、その達成に結びつく手だての工夫を通して	1年次/3年	全教科・領域
2	古川西中学校	分かる・できる学習指導の工夫	自分の考えをもち学び合う学習を通して	2年次/3年	全教科
3	古川北中学校	思いや考えをまとめ、表現できる生徒の育成	書いた考えを他とつなぐ活動を通して	2年次/3年	全教科
4	古川東中学校	思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒の育成	より良い課題解決のための「比べる」「関連付ける」活動を通して	3年次/3年	全教科・領域
5	古川南中学校	確かな学力を身に付けさせる指導法の工夫	言語活動の充実を図る学習活動の工夫を通して	3年次/3年	全教科
6	松山中学校	学んだことを活用し、思考力を高めていく生徒の育成	気づき、考え、表現する授業の工夫を通して	3年次/3年	全教科
7	三本木中学校	自ら考え、表現する力を高め合う生徒の育成	言語活動を取り入れた授業づくりを通して	3年次/3年	全教科
8	鹿島台中学校	自ら進んで考え、生き生きと学ぶ生徒の育成	基礎・基本の定着を図り、できる喜びを味わわせる指導法の工夫	2年次/2年	全教科
9	岩出山中学校	よりよい生き方をもとめる生徒の育成	主体的に学習に取り組ませる指導の工夫を通して	3年次/3年	全教科・領域
10	鳴子中学校	確かな学力を身に付けさせる指導の研究	言語活動の工夫を通して	2年次/3年	全教科
11	田尻中学校	分かる喜びを体得し、確かな学力を身に付けた生徒の育成	学び合いを促す学習活動の工夫	2年次/3年	全教科
12	中新田中学校	確かな学力を身に付けた生徒の育成	学びの実感をもたせる指導の工夫を通して	2年次/3年	全教科
13	小野田中学校	自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成	基礎的な学力を定着させる授業づくりを通して	2年次/3年	全教科
14	宮崎中学校	自分に自信をもち、生き生きと自己実現を図る生徒の育成	授業に生きる家庭学習の工夫をととして	2年次/3年	全教科
15	色麻中学校	自ら考え、豊かに表現できる児童・生徒の育成		2年次/3年	全教科
16	涌谷中学校	確かな学力を育み続ける生徒の育成	「思考力」「表現力」を高める授業づくりを通して	1年次/3年	全教科
17	小牛田中学校	確かな学力を身に付けさせる指導法の工夫	言語活動を取り入れた授業づくりを通して	3年次/3年	全教科
18	不動堂中学校	自ら考え主体的に学ぶ生徒の育成	生徒が生き生きと取り組む授業づくりを通して	1年次/3年	全教科
19	南郷中学校	学習意欲を高める指導法の工夫	「分かった」「できた」が実感できる授業づくりを通して	2年次/2年	全教科
20	古川黎明中学校	確かな学びを育む指導の工夫	自己学習力を高める授業づくりを目指して	2年次/3年	全教科

◎ 各学校の傾向は・・・

- ① 児童生徒像としては、「自分の考えをもち」「学び合う」「伝え合う」「表現する」姿を目指しています。
- ② 育成する力としては、「確かな学力」「思考力」「判断力」「表現力」等を挙げています。
- ③ 言語活動の充実を意識した研究に取り組む学校が多く見られます。

VII (2) 校内研究計画の作成例①

研究計画を作成するに当たって

◎ 研究計画

学校教育目標具現化のため、各種学力調査を活用し、児童に身に付けさせたい力を明らかにして研究主題を設定している。具体的には、国語科の「読むこと」の領域における「文学的な文章」に視点を当てて実践を積み重ね、研究主題に迫っていく。

◎ 2年目研究構想図



◎ 研究計画にはこんなポイントが・・・

① 研究全体の流れがつかめる研究構想図を作成している。

研究構想図に「身に付けさせたい力」や手立てとなる「視点」、「研究内容」が明示され、研究全体の流れがつかめるようになっています。

② 各種調査を活用し、身に付けさせたい力を明確にする。

CRT学力調査や全国学力学習状況調査の結果等をもとに、児童に身に付けさせたい力を明らかにし、学年部毎の「目指す児童像」を設定しています。「目指す児童像」が明確であれば、教師の支援が具体的で適切なものになります。

※この実践例は、美里町立中塚小学校の平成27年度の研究計画を参考にさせていただきました。

VII (2) 校内研究計画の作成例②

研究計画を作成するに当たって

◎ 研究計画

生徒に確かな学力を身に付けさせるために、教師が「分かる・できる授業づくり」を行う。具体的には2つの視点を設け、3年計画で有効な手立てを蓄積し、研究主題に迫っていく。

◎ 1年目の反省

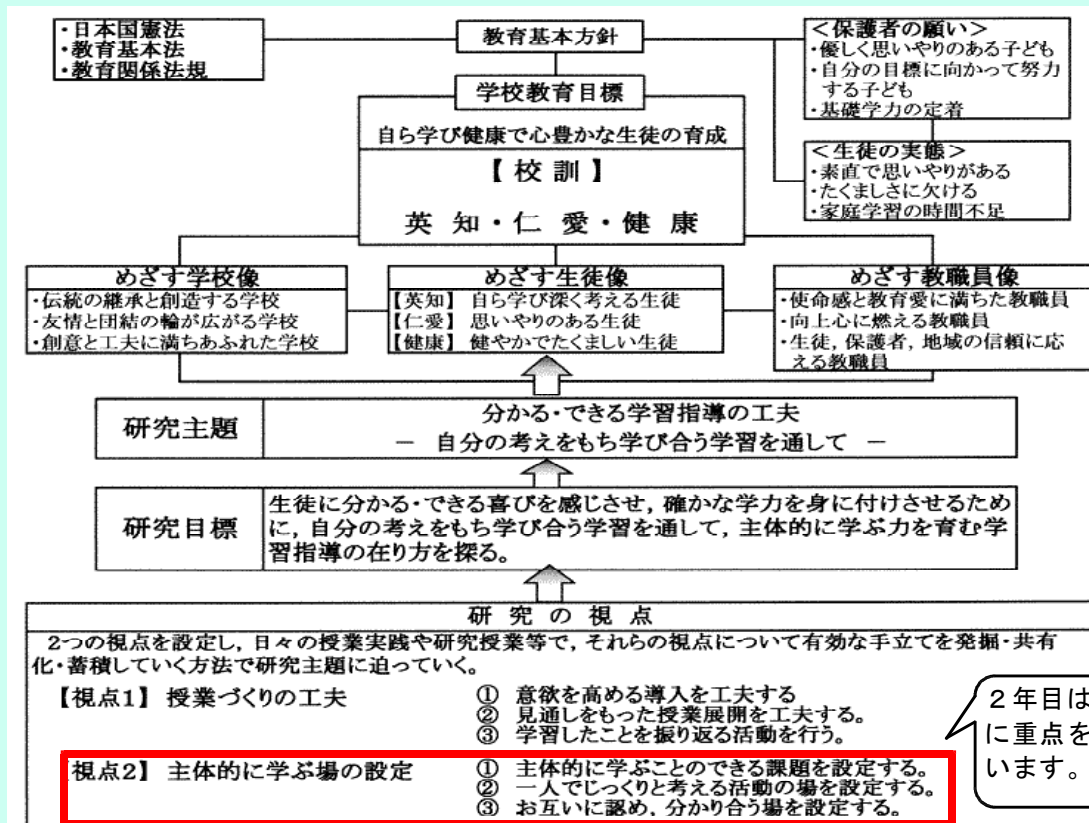
1年目の実践では、視点1における具体的手立ての3点について検証し、成果について確認できたが、「本時の課題や目標を明確にし、それに応じた導入を行うこと」など、課題が残った。

そこで今年度は、視点1の手立ても継続しつつ、視点2に重点を置いて実践を積み重ねていく。

年次	活動計画
<第1年次> 平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究主題の吟味, 研究の方向性や研究体制の確認 ・生徒学習意識調査内容の検討 ・実践研究の成果と課題の検証 ・次年度の計画立案 ※ 研究主題に関する文献研究 ※ 研究の【視点2】を踏まえながら, 【視点1】に重きにおいて実践する。 ※ 「分かる」, 「できる」, 「主体的」とはどんな状態か検討 ※ 経年比較ができる「生徒学習意識調査」の内容を吟味する。 ※ 全国学力・学習状況調査, 学力診断テストにおける経年比較箇所の検討
<第2年次> 平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究内容の焦点化と実践の深化 ・生徒学習意識調査と前年度との経年比較及び検証 ・主題に基づく授業実践 ・実践研究の成果と課題の検証 ・次年度の計画立案 ※ 研究主題, 副題の再考 ※ 研究の【視点1】を踏まえながら, 【視点2】に重きにおいて実践する。
<第3年次> 平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究内容の深化と, 経年比較及び検証 ・主題に基づく授業実践の継続と発展 ・実践研究の成果と課題の検証 ・研究のまとめ ・次年度の計画立案 ※ 研究の【視点1】と【視点2】の実践を行う。 ※ 3年間の研究をまとめ, その成果と課題から次年度の計画を立案する。

年次計画が作成されています。

◎ 2年目研究構想図



2年目は視点2に重点を置いています。

◎ 研究計画にはこんなポイントが・・・

- 年次計画を作成し, 前年度の課題を基に今年度の重点となる取組を示している。複数年度にわたって取り組む校内研究の全体像を把握することができます。研究年次に応じて重点的に取り組む視点を設定し, 3年間を見通した研究を進めています。

※この実践例は, 大崎市立古川西中学校の平成27年度の研究計画を参考にさせていただきました。

VII (3) 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」について

◎ 国立教育政策研究所で作成した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用方法についてのリーフレット(平成23年11月作成)より

活用方法1 評価の進め方や手順を参考にする

参考資料は、先生方が実際に評価を進めるに当たって参考となるよう、以下のように評価を進める際のそれぞれの場面で活用していただけるように作成しています。

■ 単元又は題材

- ・ 単元、小単元、題材など、教科等によって指導計画を作成する際の「学習内容のまとめり」の捉え方が異なります。そのまとめりを踏まえて指導計画上の目標を設定することが大切です。

□ 評価の進め方

1 単元又は題材の目標を設定する



2 評価規準を設定する



3 評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける



4 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする



5 観点ごとに総括する

○ 留意点、参考資料の活用場面

- 学習指導要領の目標と内容を踏まえる。
- 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。

■ 評価規準

- ・ 設定した目標について、児童生徒がどのような学習状況として実現すればよいのかを具体的に想定したものです。
- ・ 観点ごとに設定し、「おおむね満足できる」状況を示しています。

活用場面1

- 単元で取り上げる内容と同じ内容の『第2編 評価規準に盛り込むべき事項等』を参考にして、評価規準を設定する。
- 上記で設定した目標を踏まえるように留意する。

■ 「指導と評価の計画」

- ・ 設定した評価規準と評価方法を指導計画に位置付けたものです。

活用場面2

- 評価時期や評価方法などについて、『第3編 評価に関する事例』を参考にして、「指導と評価の計画」を作成する。

■ 評価の目的

- ・ 学習評価を行うに当たっては、児童生徒の学習状況を把握して次の指導に生かすことが重要です。
- ・ また、指導要録の記載に向けて観点ごとに評価結果を記録に残し、それを総括することも必要です。

活用場面3

- 『第3編 評価に関する事例』を参考にして、どんな評価資料(子どもの反応や作品など)を基に、どのような(「おおむね満足できる」状況等の判断の)目安で評価するかを考える。

活用場面4

- 『第3編 評価に関する事例』を参考にして、集まった評価資料やそれに基づく評価結果(A, B, C)などを基礎資料に、観点ごとの総括的評価(A, B, C)を記録する。

小学校社会科を例にした実際の作業 (第6学年 内容(2))

◇学習指導要領

1 目標
 (2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方や我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、・・・

2 内容
 (2) 我が国の政治の働きについて、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、・・・
 ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。
 イ 日本国憲法は、国家の理想、天皇の地位、国民とし

◇評価規準の設定例 参考資料の第2編

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解
・地方公共団体や国の政治の働き、日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関連に関心を持ち、意欲的に調	・地方公共団体や国の政治の働き、日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関連について、学習問題や予想、	・資料やインターネットを活用したり、聞き取り調査をしたりして、地方公共団体や国の政治の働きについて	・国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。 ・日本国憲法は、

参考資料の事例4

◇小単元「願いを実現する政治」

1 目標
 地方公共団体や国の政治の仕組みや働きについて、資料を活用したり聞き取り調査をしたりして調べ、社会保障などの取組には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることが分かり、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えるようにする。

2 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解
①地方公共団体や国の政治の仕組みや働きに関心を持ち、意欲的に調べている。 ②政治の仕組みや働きと国民生活との関連に関心を持ち、国民が政治に関心を高めることの大切さを考えようとしている。	①地方公共団体や国の政治の仕組みや働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え、ノートに記述している。 ②地方公共団体や国の政治の仕組みや働きと国民生活を関連付けて考え、根拠を示して説明している。	①資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして、地方公共団体や国の政治の仕組みや働きについて必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを整理して関係図にまとめている。	①高齢者福祉などの社会保障の取組には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。 ②国会、内閣、裁判所は、それぞれ大切な働きをしていることや、相互に関連し合っていることを理解している。 ③政治は国民生活

3 指導と評価の計画

ねらい	主な学習活動・内容	評価方法と【評価規準】
市の高齢者福祉の取組に関心をもつようにする。	「税金の使い道」から政治の働きには様々なことを知る。 「人口ピラミッド」から高齢化社会の課題を話し合う。	発言の内容や話し合いの様子から、「市の高齢者福祉の取組に関心をもとうとしているか」を評価する。 【関-①】
市の高齢者福祉の政策や取組を調べる学習計画を立てることができるようにする。	市の高齢者福祉の取組を調べる学習計画を考える。 ・高齢者の願い ・計画から実施までの経過	ノートの記述内容から「自分の予想を持ち、市の高齢者福祉の取組を調べる学習計画を具体的に記述することができたか」を評価する。 【思-①】

■目標の設定

学習指導要領において政治の働きに関する学習は、アとイの2つで構成されています。事例の小単元は、このうちのアを取り上げた目標と内容になっています。

■評価規準の設定

事例では、評価規準を観点ごとに2つ程度設定しています。これは、目標の実現を図る上で重要な学習活動、評価場面を示していると同時に、評価規準が細かくなりすぎないように意図しているからです。

■評価の観点の焦点化

事例では、ねらいと評価が対応していることが分かります。指導のねらいに即して評価の観点を絞り込んでいるからです。

■評価方法の記述

事例では、評価方法として、「評価資料」(〇〇から)と「評価の目安」(〇〇しているか、〇〇できたか)を記述しています。評価規準とともに、こうした補足事項を記述することも大切です。

活用方法2 各教科の事例から実際の評価方法を参考にする

「参考資料 第3編」の事例は、具体的な評価場面や評価方法など、以下のことが調べられます。

①観点ごとの評価方法が調べられます

- 全ての事例にキーワードを付し、各教科で紹介する内容のポイントが分かるようにしています。

【小学校理科の事例】

理科 事例4
単元名 身近な自然の観察
第3学年「B 生命・地球」

キーワード：
自然事象への関心・
意欲・態度の評価
(生物愛護)

課題を感じている先生が多い「関心・意欲・態度」や新しく整理された「思考・判断・表現」の観点を取り上げた事例も掲載しています。

②効果的・効率的な評価の進め方が調べられます

- 事例では、評価時期や評価方法について、次の点に配慮しています。
 - ・1単位時間の中で4つの観点全てについて評価規準を設定するのではなく、1単元(題材)内で平均すると1単位時間当たり1～2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を示しています。
 - ・観察を中心とした授業中の評価と、ノートやレポート、ワークシート、作品などによる授業後の評価を適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取る方法を提示しています。

③「おおむね満足できる」状況等の判断の根拠や目安が調べられます

- 「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況、「努力を要する」状況と判断した児童生徒の具体的な状況の例などを示しています。特に、「十分満足できる」状況という評価になるのは、具体的にはどのような状況であるかを例示しています。
- また、「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮した点を示すとともに、「努力を要する」状況と判断した児童生徒への指導の手立てや働きかけを示しています。

④観点別評価の総括の仕方が調べられます

- 各教科の事例1では、単元(題材)の評価規準の設定から総括までの一連の流れが分かるようにしています。
- 観点別評価の総括に当たっては、同一観点内の特定の評価規準に重み付けをして総括する場合と、重み付けをせずに均等に扱う場合とがありますが、双方の例を示しています。

参考資料では、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の事例も掲載しています。

【外国語活動(小学校)】

外国語活動の学習評価を行う際の留意点や、「英語ノート」に掲載された指導案に沿った事例、それとは異なる活動に基づく事例を紹介しています。

【総合的な学習の時間】

評価規準の設定方法等について解説しています。文部科学省刊行の「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」の第2編第4章とあわせてご覧ください。

【特別活動】

学習指導要領に示された各活動・学校行事ごとに工夫例を交えながら評価の進め方や留意点等を紹介しています。

参考資料の全文は国立教育政策研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>